

学校便り



あけぼの

発行

 校長 真喜志 昇
 平成30年度
 第31号
 1月8日

生活目標

 ・物やお金を大切にしよう
 ・早登校をしよう

明けましておめでとつございます。新しい年、平成三十一年、2019年を迎えました。地域・保護者の皆様方には、お元気で、新春を過ごされておられることと思います。

昨日、一月七日月から二学期後半がスタートしました。冬休みは師走のせわしさとお正月の華やかさで楽しいことがいっぱいだったと思いますが、健康・安全に気を付け無事に過ごし、曙っ子の元気いっぱい笑顔に出会えたことが大変うれしいです。ただ、新年始めからインフルエンザが流行し五名の児童が休んでいます。是非、ご家庭でも手洗い・うがい・人ごみを避ける等の予防に努めるようご協力お願いします。

さて、新しい年を迎え、二学期後半は、日数の短い期間です。しかし、今年も、学力到達度調査や多くの学校行事が行われます。一つ一つ、子ども達と出合いながら確実にその学年の基礎・基本をつけさせたいと考えています。

そのために、忙しい中でも、このまとめの学期を腰を落ち着けて、学年のまとめをきちんとつけさせたいと考えています。また、保護者の皆様のご協力をよろしく願います。

また、お正月、子ども達にとって一番の楽しみは、お年玉ですが、金額の多少ではありません。この機会に金・物を大事にする事や貯蓄の大切さ・お金の使い方等の金銭教育にも心配りを願います。

又、金銭によるお年玉だけでなく「心のお年玉」もあげましょう。お子さまの良いところを更に伸ばし、頑張る点を考えさせ保護者からの心のお年玉をぜひプレゼントしてあげてください。毎日の生活から、二学期前半の反省から等々、目標を持ち「誉められる自分」を目指し、「心のお年玉」を合い言葉に二学期後半を有意義にするために新しい自分・バージョンアップした自分を目指させたいものです。

明けましておめでとつございます。新しい年、平成三十一年、2019年を迎えました。地域・保護者の皆様方には、お元気で、新春を過ごされておられることと思います。

昨日、一月七日月から二学期後半がスタートしました。冬休みは師走のせわしさとお正月の華やかさで楽しいことがいっぱいだったと思いますが、健康・安全に気を付け無事に過ごし、曙っ子の元気いっぱい笑顔に出会えたことが大変うれしいです。ただ、新年始めからインフルエンザが流行し五名の児童が休んでいます。是非、ご家庭でも手洗い・うがい・人ごみを避ける等の予防に努めるようご協力お願いします。

さて、新しい年を迎え、二学期後半は、日数の短い期間です。しかし、今年も、学力到達度調査や多くの学校行事が行われます。一つ一つ、子ども達と出合いながら確実にその学年の基礎・基本をつけさせたいと考えています。

そのために、忙しい中でも、このまとめの学期を腰を落ち着けて、学年のまとめをきちんとつけさせたいと考えています。また、保護者の皆様のご協力をよろしく願います。


 今年のは、「亥年」
 活動の年にしよう

今年のは「亥年」です。猪は中国の十二支の動物の中では、ブタになっています。まるまると太り、よく食べる豚は、中国では富の象徴とされています。

最近でこそ、若い女性が美容を意識してダイエットに励むようになりましたが、もともと中国では「太ること」が生活が豊かなこととあり、「お太りになられたね」がほめ言葉だったそうです。日本でもおなじみの「福耳」のルーツは、実はここから来ています。富の象徴・福の象徴ということから派生して、豚のように大きく垂れ下がった耳を持つ人は「福耳」の持ち主として羨望の的になりました。今年、何事にもチャレンジして大きく福を獲る年にしたいですね。常に努力し運氣を取り込む良い亥年にしましょう！

そのためには、『徹底事項』①あいさつ名人 ②ことば名人 ③勉強名人になるように子ども達にはしっかり頑張らせたいと思います。

さて、一月は「行っちゃった」二月は「逃げちゃった」三月は「去っちゃった」とならないように、気を引き締め油断せず一日一日を大切に一年の締めくくりにまとめを頑張ります。

平成三十年度文部科学大臣優秀教職員表彰（職員組織の部）の受賞のお知らせ

平成三十年度文部科学大臣優秀教職員表彰において、本校職員一同が受賞しました。平成三十年度の被表彰教職員組織は四十六組織で、その一つとして受賞し、被表彰教職員は七一三名でした。

この表彰制度の趣旨は、優れた成果を上げた教員を表彰することで、教員の意欲を高め、資質能力の向上に資するために、全国の国公私立学校（大学、高等専門学校を除く。）の現職の教育職員（校長等の管理職を除く。）を対象に、平成十八年度から文部科学大臣による優秀教員表彰を実施しています。

下記の日程に、表彰式があり、定歳尚子教頭と外間明子教諭が参加してきます。

 日時…一月十五日（火曜日）十三時～十五時
 場所…東京大学・安田講堂